

## 核構造データ・サブワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 5 月 12 日 (火) 13:30 ~ 17:30  
5 月 13 日 (水) 9:30 ~ 17:00  
場 所 原研東海研究所 研究 2 棟 322 室  
出席者 喜多尾(放医研), 神戸(東工大), 松本(原研)

### 議 題

1.  $A = 128$  の核構造データの評価作業とファイルの検討
  - (1)  $A = 128$  の核構造データについては, その大部分のファイル化は終了したが, 旧 NDS を今一度チェックし直し, データの積み残しや古い文献類の選択および consistency を調べる。
  - (2)  $^{128}\text{In}$ ,  $^{128}\text{Sb}$ ,  $^{128}\text{Sn}$  の崩壊データのスピンのパリティの決定理由に未だ問題が残っている。データ・セット間の consistency など, 松本がさらに再検討を行なう。
  - (3)  $^{128}\text{I}$  の  $(n, \gamma)$ ,  $(p, n\gamma)$  データのくいちがいについては, 喜多尾によって問題点の説明があり, かなり明白になってはいるが, 古い  $(n, \gamma)$  のデータを評価者の方で大巾修正して良いかどうかについては意見が分かれた。 $(n, \gamma)$  データはどの点に問題があるかを明示して一応は残し, Adopted level の方では  $(p, n\gamma)$  を主体に書くという線が良いのではないかということになった。
2. 今後の作業方針について  
修正結果をなるべく早く相互間で交換し, 次回会合までに問題点のチェックを行っておくことにする。